

第31号

発行 丸橋歯科「良い歯の会」
発行所 群馬県高崎市栄町21-1
TEL 027-323-9524
FAX 027-322-3139
http://www.maruhashi.com/
E-mail:maruhashi.s@cb.wakwak.com

い の ち
医・農・智

光年の時を経て 繰り返す
抗えぬ 自然の摂理
水が 落ちる如く
事物の本質 のみに従う
体を通り抜け 広がる
無限の宇宙 有限のいのち
本質を 外れた時
自然は 正直に 返すだろう
策略を 弄するま
感性を 研ぎ澄ませ
自然の 声に耳を傾けよ
自然と一体になるとき
我々は生かされる (仁志)

「良い歯の会」機関紙

いのち

ほんものの生き方が問われる
「質実の時代を直視して」
丸橋 賢

浪費的に生きる

停電になって、社会活動が停止し、家庭の生活までが困難を強いられる。そればかりか、電力が失われると原発の機能も停止し、爆発して広域にわたって人間の生活を完全に破壊する現実も知らされた。これから日本人に癌が増加することも指摘されている。人間の力を超えた無理と、安全だという嘘の上に巨大なエネルギーをつくり出して浪費する、それが破綻した時、私たちの生活が虚構の上になり立っていた事に気付かされたのである。私たちの生活には立脚する根拠が無かったのだ。根拠が無いところからは不安が生まれる。その社会不安はいつも現代社会に漂っていたと感ずる。
私たちの生活は、確かに浪費的に過ぎた。電力不足に対応して、診療所の電灯を半分消引いてみると、やや暗いその照明にすぐ馴れた。私たちは大きな過ちを犯していた。多くの人が、人間は分相応に生きなければ、その生き方は嘘だ(虚だ)という自然界の掟に気付かされたのだ。

有限の生態学を知る

生物が生きているということは食い尽くし、汚し尽くすことである。それが自然の持つ生産力と浄化力の範囲内であれば、生物の持続的生存が許される。踏み越えた時、生命の衰退がはじまり死滅に至るのが自然の法則である。一つの実験をして、じつと見極めてみると真実を見る事ができる。
水槽がプラスチックを選び、底に砂や小石を敷く。川か池の水を張り、水面より高い丘も作る。そこに水草や草を植え、何種類かの生物を放す。カニ、タニシ、ドジョウ、オタマジャクシなど、身近にいる生物がよい。



写真① 「癒しの思想」初版。1984年、柏樹社刊。現在、春秋社から再版されている。

過度の冷暖房、食べすぎや使い捨て

明る過ぎる照明ばかりでは無い。夏は寒くなるほど冷やして上着を羽織り、冬は汗ばむほどに暖房をかけるばかりでなく、直接若い人の耐寒・暑力を弱めてしまった。アフリカやモンゴルなどの調査にスタッフを同行させると、若い人から暑いと言ってはダウンし、寒いと言っては寝込んでしまい、調査の役に立たず、重荷になってしまふ。
使い捨てにも目に余る。無造作に何枚もティッシュペーパーを引き



写真② 短くなるまで使ったエンピツ。これで15冊の本や多くの雑文を書いた。

熟視と熟考のすすめ

新しいほんものの生き方、時代を拓かなければならない時にきていることは明らかである。ほんものを見る目に支えられなければ成り立たない。時代とは、多くの人の目と思考を支えられて形づくられるものである。反面、個人の見方も思考も、強く時代の制約を受けている。時代の制約の範囲内で、真実を見る視点をもち、ほんものというに近づくことは不可能である。人はその時代の常識や価値観、世論や権威といった拘束力の下での見方を、考えているのである。例えば、『脱亜入欧』を説いた福澤諭吉の思想も、アジアを蔑視し、西欧に習って福国をめざそうという、中国をはじめとするアジアの植民地化を企てる時代の産物として生まれたものだ。また私のいる歯科の学問の世界を見ても全く同じことが見てとれる。ブランク(歯垢)が歯周病の主因だといふ説が通説であり、権威がそう説けば、ほとんどの歯科医はその考え方に拠り、その視点から外に出ることはできない。しかし私の観察によれば、ブランクがいっぱいついていても歯周病にならない人もいるし、熱心にブラッシングを行い、清潔な歯肉なのにほとんど歯周病が進行する人もいる。それに加え、ブラッシングをほとんど行わない、未開地の民族には歯周病が全くと言ってよいほど見当たらない。私は観察の結果に素直に従い、歯周病の主因は食生活の現代化にある、と主張してきた。
結局、私の説は真実に近いものだった。私はいま、ものを見つめ、考えるに当たって、全ての先入観や権威、世論、定説など的一切を捨て去ることが最も大切だと考えている。汚れないまっ白な目と心で熟視と熟考を行うこと、この態度を保持し続けることろから、ほんものが見え、ほんものの生き方が見えてくると強く実感している。そのような多数の目と心によって、新しいほんもの時代が拓かれるのだ。

不安のない確信が...

ほんものことに立脚しない考えには根拠がない。根拠のない生き方、行いには常に不安があるから、自分の目で見つめ、考えることをしない人々は集団を形成する。多数を頼み、お互いに寄りかかり合うことで不安や孤独を避けたいのだ。そのような人々は個人でなく、大衆と呼ぶ。だから根拠をもたない大衆は誤った暴走をする。ハイル・ヒトラー、毛沢東、天皇陛下下万歳がその代表例であるが、同様な性質の動きが多くある集団で見られる。しかし、時代や集団の考えに依拠したところからは、絶対にはほんものの生き方は生まれず、新しい時代も拓けないことを心に刻んで欲しい。
純粋な目で熟視し続ける。先入観に汚されないうまな心で熟考する。わからないことはわからなくともよい。そのままじつと熟視し、熟考を続けるだけで、いつか少しづつ、ほんものが目に見えはじめてくる。その時はじめて、確信が生まれはじめるのだ。不安のない確信、充実した心がしっかりと根を張る。生きる幸せとは、その時に実感するものである。熟視と熟考に徹する習慣をおすすめしたい。

Advertisement for dental services and books. Includes titles like 'インプラントの実際', 'インプラントで安心', '心と体の不調は「歯」が原因だった!', '体調不良は歯で治る!', '全人的治癒への道', '癒しの思想', 'みんなのための家庭の歯学', '咬み合わせ不良の予防と治療', '歯槽膿漏', '新しい歯周病の治し方', '顎偏位症の治療と予防', '歯で守る健康家族', '生きる力', 'よいはちゃん歯なし国へ丸橋裕子', 'エリカのお花ばたけすいせん村のわがやごき'.

怪談より怖くアメリカ流「自由」

13分でわかるTPPの怖く話

(社)農山漁村文化協会 編集局 金成 政博

TPP(環太平洋経済連携協定)はシンガポール、ニュージーランド、チリ、ブルネイの4カ国が2006年に発効させたFTA(自由貿易協定)の一種です。4カ国合わせて人口わずか2600万人と、日本の5分の1。しかも、お互い競合する産品がほとんどない小さな国同士の自由貿易協定でした。

ところが、09年11月にアメリカのオバマ大統領が「オレにも参加させろ」と言い出し、次いでオーストラリアも参加を表明したあたりから様相が一変。これによりTPPは「小国のFTA」から「帝国のFTA」に豹変しました。アメリカが小国の軒先を借りて母屋を乗っ取り、帝国の世界戦略追求の手段にしたわけです。

TPPが従来のFTAに比べて「革新的」なのは、FTAでは通常認められていた例外措置を認めない「例外なき関税撤廃」であり、しかもそれを即時(最大猶予しても10年以内)に行うことが義務づけられるという点です。

あらゆるモノやサービスにかかる関税がなくなるというところは、「消費者」の立場からは(しかもあくまで、質や安全性といったことを除外した値段だけの話ですが)歓迎されることではあるでしょう。しかし私たちが消費者であると同時に「生産者」でもあります。経営者であろうと従業員であろうとモノやサービスの生産者でもあります。むやみやたらに関税を撤廃するということは即ち私たちの生産するものが外国製品に席巻され働く場を失うということでもあります。

とりわけいのちの源である食料や医薬品や医療そのものは、安ければ安いほどいいという単純なものではないでしょう。

食料で見てもみまると、世界的に干ばつ・洪水などが多発し、食料輸出国がある日突然輸出を停止ないし大幅に減らすという事態はロシアやオーストラリアの小麦の例

を見るまでもありません。でも、そもそも食料不足の時に自国民の食料確保を優先するために輸出を制限、禁止するのは輸出国といえど当然のことです。その国の食料主権というものです。であるならば輸入国も、輸出国の主権の行使で不測の事態に陥らぬよう日頃から食料自給率を高めるよう努力するのもこれまた当然の主権の行使でしょう。

そのような主権の行使を、TPPは奪ってしまいます。TPPに加盟したら国内法よりTPP協定のほうが上位に置かれ、国家主権も国民主権もあつたものではないのです。

安さに見目がくらんで国内生産をおろそかにしては、いくらお金があつたとしても、いつかお金の役に立ちません。ゆめゆめ目先の利益に眼を奪われないよう気をつけたいのです。

同じことは医薬品や医療サービスにも言えます。医療市場を開放して安い医薬品や病院や日本語に不慣れた医師や看護士がどんどん日本に入ってきたと護士がどんと想像するだに背筋が寒くなります。

TPPはさらに、これら財やサービスの貿易自由化だけでなく、労働市場、金融、投資の自由化など広範な分野の自由化を極限まで推し進めようとするものです。

例えば、投資について、メキシコに進出して米国内企業に関する事例を紹介しましょう。「あるメキシコの自治体が、企業の有毒廃棄物処理施設の建設に事前の建設許可を必要とすると決議したところ、同社は、北米自由貿易協定に違反するとの異議申立てを行ない、その結果メキシコ政府は、投資価値を低めたとして1560万米ドルの損害賠償の支払いを命じられた」(J.ケルシー編著『異常な契約—TPPの仮面を剥ぐ—農文協刊より)。

アメリカ流「自由」の、なんとも恐ろしい話ではあります。

「健康を維持する定期『健診』」

歯科衛生士 岩井 志鶴穂

皆さんは定期的に検診をうけていますか？ 虫歯や歯周病の初期は気付かず進行しています。痛みや不具合が出てから来院される方の中には、検診を受けておらず症状がかなり悪化しているため歯を失ってしまう場合もあります。痛みが出てから治療するという従来型の歯科治療から脱却し「自分の歯を生涯健康に維持するため歯科医院へ行く」という考えに変えてみてはいかがでしょうか。

当院の「健診」では「虫歯の早期発見」「歯周病の検査」「咬み合わせの調整」「歯石除去」そしてセルフケアへと繋がります。「ブラッシング指導」等を行っていただきます。自己流になつてしまったブラッシングや生活習慣の改善は、虫歯や歯周病を防ぎます。更に、歯は毎日使っているため咬み合わせのバランスが崩れ、身体症状等が出てしまわぬよう調整する事も重要となります。

当院では、お口の健康が全身の健康へ繋がります。維持できるように半年又は1年ごとの定期「健診」をお勧めしています。

東京特別講演と歯科治療相談会

ぜひご参加ください **参加無料**

2011年9月11日(日)
10:00 ~ 16:30

場所: 学士会館
東京都千代田区神田錦町3-28
(地下鉄 神保町駅下車徒歩1分)

4講演を予定(インプラント・咬み合わせ・歯列矯正・全人医療)
丸橋歯科ドクターによる無料相談コーナー
骨密度・咬合力・口臭など無料測定も実施

良い歯の会にご参加ください

- 〈ご案内〉
- 日時 毎月第2土曜日 午後1時30分～5時
 - 場所 丸橋全人歯科3階研修室
 - 内容 4回連続参加で1シリーズ

内容	開催月
① 環境と人間の生き方を考える	1月 5月 9月
② ムシバ予防を中心に家族を考える	2月 6月 10月
③ 歯周病と生活習慣病を克服しよう	3月 7月 11月
④ 退化病と闘う	4月 8月 12月

■定員 60人(入場無料)

ご家族、お友達などお誘い合わせのうえ、ご参加ください。どなたでも参加できます。お電話でご予約ください。☎027-323-9524

試食会も行っています(本物食品と市販食品の食べ比べやおすすめメニュー紹介など)。

※毎月第2土曜日開催が原則ですが、祝日・夏期休暇などと重なる場合は第1か第3土曜日に変更となります。詳しくはお問い合わせください。

「良い歯の会」のホームページ
<http://www.yoihanokai.jp> 今後の予定や動画も配信しています。

～良い歯の会に何度も出席された方より～

人間らしい生き方を探求する時間

匿名(兵庫県・会社員・37歳)

生活を見直そうと参加させて頂いた「良い歯の会」でした。が、歯や食のお話だけでなく、もっと奥深い「人間らしい生き方」を思索するお話が新鮮で自分自身も成長できる気がして何度か参加させて頂きました。特に先生の「民族は食文化以上の文化は作れない」や「観察は確信に至る入り口」等の名言が心に残っています。様々な国の人々のお話も印象的でした。危険なイメージの中東や制限された環境のキューバの人々の嘘のない明るい笑顔の写真、心温まる人々のお話から日本人が失ったもの、本当の幸せとは等考えさせられることが多々ありました。

また試食会で頂いた本物の野菜は作った方の心が伝わってくるような自然で優しい味で感動しました。自分の食生活も「良い歯の会」で学んだ「まごころはやさしい(豆・ゴマ・米・野菜・魚・きのこ)」の摂取を毎日心がけ、以前より疲れにくく風邪もひかなくなり驚いています。今後も健康の条件を忘れず、物や情報が溢れる現代でも本質を見失わない心を持って生活していきたいと思えます。



玄関に置かれた藤の花



花ピンに活けられたススキ、季節を感じる事ができる。

いのちの花

「良い歯の会」運営主任 岩田 恭子

三月十一日東日本大震災により被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

震災により日常生活や多くの方々の命が奪われてしまいました。原発は未だに解決の手段が見つかからない悲惨な状態です。私たちが自然の中で生かされていることを忘れ、日々の生活を送ることに対し、自然ときちんと向き合おう。

三月十一日東日本大震災により被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

最近の新聞で被災地の写真を見ました。流されてしまいい何もない瓦礫の散乱する中で、長ネギが何もなかったかの様にネギ坊主の花を咲かせていたのです。こんな過酷な状態でも生きようとしているんだと心を打たれました。

植物は季節を敏感に感じ取り、芽吹き、花を咲かせます。しかし、私達は四季を感じ取る事が少なくなっています。過剰な温度

管理の中で生活し、食べ物にしても、ハウス野菜などが出まわり旬を感じず食べています。そんな中で「是非、当院にいらっしやうた時は是非、院長自ら、自宅の庭や近隣の山から、毎週休診日に四季の山野草を探ってきています。院内に活けてある花で、買った花はありますか。花の色香りで四季を感じていただき、和んでいただけたらと思います。

先日まで、「山フジ」が美しい紫色で甘い香りを漂わせて、咲いていました。実際の山で山フジを見ると、大きい木に絡みついていて、きれいに咲いています。どんな高く木に絡みついていて大きくなり、木が倒つてしまえばどうなるか、絡まれた木は枯れてしまします。自然の厳しさを感じて出来事です。小さい野花は、一日草が多く、晴天の日に花を咲かせた方には、受粉してもらったため、きれいな色や香りを出し、虫を集め、いのちを繋いでいきます。

院内に活けてある山野草を見て四季やいのちを感じて下さい。

丸橋歯科ドクターの“出張講演”承ります

ご希望の方 ご相談下さい

インプラント・咬み合わせ・矯正・歯周病・食生活などご希望に合わせて、内容はご相談下さい。専門分野のドクターがお伺いします。講演後の質疑応答も受け付けます。

お申込み・お問い合わせは
TEL 027-323-9524 まで

今後の発行予定

丸橋院長 最新刊!

いのちの 見方・耕し方

農文協より

丸橋歯科各専門分野のドクター共同執筆

歯科治療のあらゆるナゼ? を解き明かす!!

PHP文庫より

編集後記

厄年の年齢頃より人体にプロゲラムされた細胞の衰退が始まります。しかし、増骨手術で患者さんの骨をみていくと、かなりの個人差があることに気がつかれます。健康であるためには良い食材と酸素、血流に加え、過度なストレスを受けないことが大切と感じています。これらに関係し、身体バランスを整える咬み合わせを改善することで、さらに健康を増進させることができます。昨年、このテーマにふさわしい演者を招いて東京高崎で講演会を開き、今回紙面に掲載させていただきました。

皆様は声を我々に気付きを与えます。それを糧に、さらに良い歯の会を発展させたいと思えます。(辻本仁志)